

知
と
自
由
へ
の
誘
い



京都大学 大学案内 2016



Message from the President

世界に羽ばたき、地球社会の共存に貢献しようとする
高い志をもつみなさんへ

京都大学総長
山極 壽一

本年で創立118年を迎える京都大学は、日本を代表する総合大学として10学部に加え充実した大学院や全国一を誇る研究所群を擁しています。また、「対話を根幹とする自学自習」によって創造の精神を涵養する世界最高水準の学びの場を提供しています。これまで累計で199,782名の卒業生を世に送り出し、多くの卒業生が学術分野のみならず、産業界、官界など様々な分野で活躍しています。

みなさんが京都大学で学ぶことはなにもにもかえがたい経験となるはずです。京都は世界に誇る歴史と文化の都です。みなさんは千年以上続いた日本の文化や伝統を肌で感じつつ、それを革新していく姿勢を京都の地で学ぶことになります。古典から現代先端技術にいたるまで幅広い知識を身につけ、大局的にもものを見、自由に発想できるようになるためには、旺盛な知識欲を満足させる優れた教育環境と学んだことを我が物とする沈潜の時が必要です。現に各界で活躍する卒業生は、京都大学で学んだからこそ、学問を通じて、学問の源流や本来あるべき人間社会の姿というものに思いをはせつつ、確固たる人生の礎を築くことができたと異口同音に語っています。

京都大学では、人文学、社会科学、自然科学の各分野で様々な独創的な研究がなされています。本学の研究の多様性とユニークさは群を抜いており、霊長類研究やiPS細胞研究などはその一端を示すものにすぎません。これらの先端的研究を担う研究者たちが、初年次教育から連携して参加し、全学体制で基礎・教養教育を行うのが京都大学の特色です。みなさんは、1年生からの少数人数ゼミ「ポケット・ゼミ」(平成28年度よりILASセミナーとして再編)などを通じて、独創的な研究を行っている研究者から最先端の研究の手ほどきを受けることになります。

人間は地球上の小さな存在ながら、その行いが地球全体の様相を変える可能性を秘めた存在です。その可能性と責任を胸に、将来世界を舞台に活躍するリーダーとして地球社会の共存に貢献しようという高い志を持つみなさん。自由で知的刺激にあふれた大学、京都大学はみなさんの未来の飛翔のための翼を整える大学でありたいと総長として願っています。ぜひ、京都大学でそのときを迎えてください。

京都大学の基本理念(抜粋)

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多面的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

教育

京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。

京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

(平成13年12月4日制定)

京都大学アドミッション・ポリシー

京都大学は、日本の文化、学術が育まれてきた京都の地に創設された国立の総合大学として、社会の各方面で活躍する人材を数多く養成してきました。創立から1世紀以上を経た21世紀の今日も、建学以来の「自由の学風」と学術の伝統を大切にしながら、教育、研究活動をおこなっています。

京都大学は、教育に関する基本理念として「対話を根幹とした自学自習」を掲げています。京都大学の目指す教育は、学生が教員から高度の知識や技術を習得しつつ、同時に周囲の多くの人々とともに研鑽を積みながら、主体的に学問を深めることができるように教養をすることです。なぜなら、自らの努力で得た知見こそが、次の学術展開につながる大きな力となるからです。このため、京都大学は、学生諸君に、大学に集う教職員、学生、留学生など多くの人々との交流を通じて、自ら学び、自ら幅広く課題を探索し、解決への道を切り拓く能力を養うことを期待するとともに、その努力を強く支援します。このような方針のもと、優れた学知を継承し創造的な精神を養い育てる教育を実践するため、自ら積極的に取り組む主体性をもった人を求めています。

京都大学は、その高度で独創的な研究により世界によく知られています。そうした研究は共通して、

多様な世界観・自然観・人間観に基づき、自由な発想から生まれたものであると同時に、学問の基礎を大切にする研究、ないし基礎そのものを極める研究であります。優れた研究は必ず確固たる基礎的学識の上に成り立っています。

京都大学が入学を希望する者に求めるものは、以下に掲げる基礎的な学力です。

1. 高等学校の教育課程の教科・科目の修得により培われる分析力と俯瞰力
2. 高等学校の教育課程の教科・科目で修得した内容を活用する力
3. 外国語運用能力を含むコミュニケーションに関する力

このような基礎的な学力があってはじめて、入学者は、京都大学が理念として掲げる「自学自習」の教育を通じ、自らの自由な発想を生かしたより高度な学びへ進むことが可能となります。

京都大学は、各学部の理念と教育目的に応じて、その必要とするところにしたがい、入学者選抜における教科・科目等を定めており、望ましい基礎的な学力を備え、京都大学の学風と理念を理解して、意欲と主体性をもって勉学に励むことのできる人を、国内外から広く受け入れます。

CONTENTS

トピックス	教育を支える施設
002 京都大学特色入試	066 情報環境機構
	067 図書館
Focus	さらなる飛躍を支援
004 京都大学人物伝	068 国際交流
京都大学の教育	070 大学院進学
006 京都大学の教育システム	072 就職支援
008 京都大学の教養・共通教育を担う 「全学共通科目」	学生生活サポート
010 アカデミック・カレンダー	074 学生生活を支援する制度や施設
012 ILASセミナー	京都大学について
学部紹介	077 クラブ・サークル
018 ■総合人間学部	入試関連資料
022 ■文学部	080 入学者選抜実施状況について
026 ■教育学部	081 合格者最高点・最低点 多様な入学制度
030 ■法学部	082 出身高校等所在地別志願者・入学者数
034 ■経済学部	教員の研究テーマ紹介
038 ■理学部	083 教員の研究テーマ紹介
042 ■医学部 医学科	お問い合わせ・その他
046 ■医学部 人間健康科学科	096 オープンキャンパス・京都大学説明会・ 大学合同説明会
050 ■薬学部	097 学生募集要項等の請求方法
054 ■工学部	098 キャンパスマップ・交通案内
058 ■農学部	
062 Student voices	

Kyoto University Guide Book 2016



京都大学の初代総長木下廣次は、履修科目の選択肢を広げるなど、学生の自立性を尊重した教育方針を採用したことで知られている。京都大学創立後最初の入学宣誓式において、木下は「大学学生に在りては自重自敬を旨とし以て自立独立を期せざるべからず」と述べている。

京都大学特色入試

京都大学は、平成28年度入試から
あなたの学ぶ力と高い志を求めて
京都大学特色入試を開始します。



京都大学特色入試を始めるにあたって

京都大学は創立以来、対話を根幹とした自由の学風のもと自主独立と創造の精神を涵養し、多角的な課題の解決に挑戦して、地球社会の調和ある共存に貢献すべく、質の高い高等教育と先端の学術研究を推進してきました。

また、大学を社会や世界に開く窓として位置づけ、有能な学生や若い研究者の能力を高め、それぞれの活躍の場へと送り出す役割が大学全体の共通のミッションであると考えています。

しかし、大学4年間だけで人材育成ができるものではありません。高校3年間+大学4年間の7年間、あるいは中学校・小学校までさかのぼってその育成方針を共有し、一人ひとりを丁寧に育て上げていくべきだと思います。したがって、高校教育から大学教育への接続を図り、一体的に人材育成を進めるため、高等学校と大学との接続・連携を緊密なものとする「高大接続型」の入学者選抜が非常に重要となってきます。

本学では、このような高等学校における幅広い学びと接続した入学者選抜方法について検討を重ね、本特色入試の導入を決定し

ました。従来実施してきた一般入試はそのまま残しますが、学力試験だけでは測れない能力をこの特色入試では是非評価したいと考えています。この2つの入試により、違う能力が出会い、そこで切磋琢磨する場所が与えられることによって、新しい考えが生まれ出されていくことを期待しています。

京都大学は、単に競争的な環境を作るのではなく、分野を超えて異なる能力や発想に出会い、対話を楽しみ協力関係を形作る場を提供していきたいと考えています。そういった出会いや話し合いの場を通じて野生的で賢い学生を育て、彼らが活躍できる世界に向けた窓を開け、学生たちの背中をそっと押して送り出すことが、私たち京都大学の教職員の共通の夢であり目標です。

高校生・受験生の皆さんが、この特色入試という新しい扉を開けて、本学に集まってくれることを期待しています。

平成27年6月

京都大学総長 山極 壽一

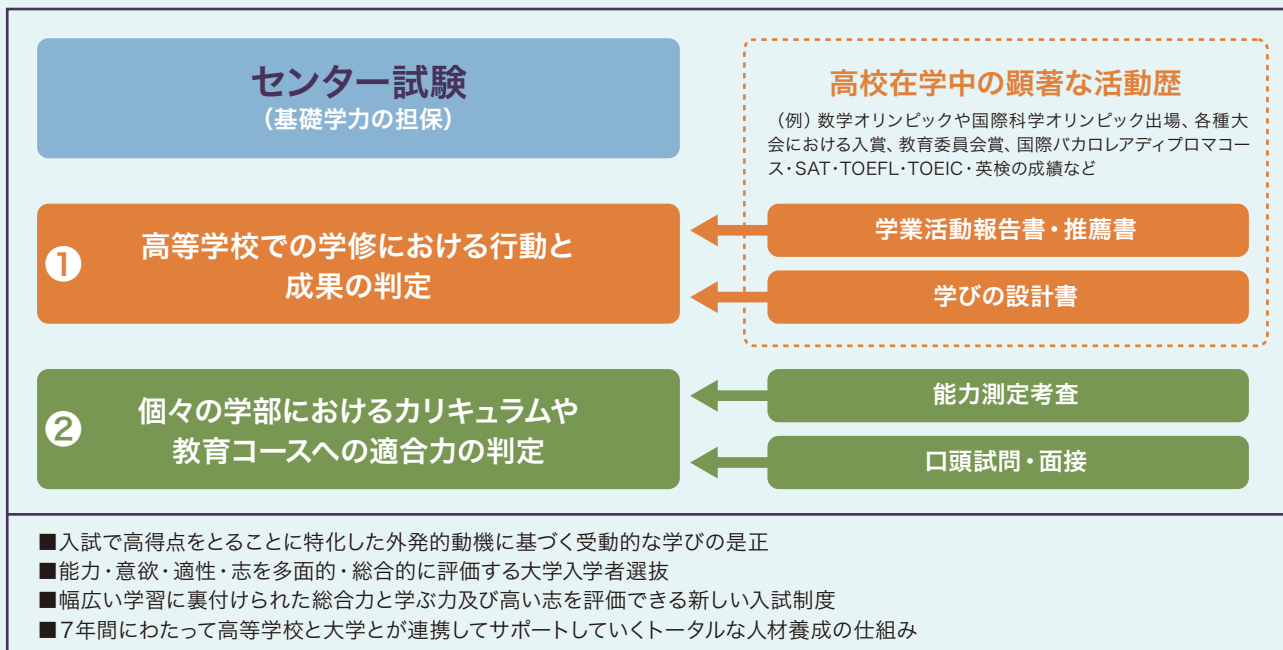
京都大学特色入試の特徴

京都大学特色入試では、高大接続と個々の学部の教育を受ける基礎学力を重視し、

① 高等学校での学修における行動と成果の判定

② 個々の学部におけるカリキュラムや教育コースへの適合力の判定

を行い、①と②の判定を併せて、志願者につき高等学校段階までに育成されている学ぶ力及び個々の学部の教育を受けるにふさわしい能力並びに志を総合的に評価して選抜します。



学部・学科・専攻名		募集人員	選抜方法	試験実施方式	提出書類	
総合人間学部		5名	提出書類、能力測定考査(文系総合問題、理系総合問題)の成績、大学入試センター試験の成績	学力型AO	調査書、学業活動報告書、学びの設計書	
文学部		10名	提出書類、大学入試センター試験の成績、論文試験、学びの設計書に関連する論述試験の成績	学力型AO	調査書、学業活動報告書、学びの設計書	
教育学部		6名	提出書類、課題及び口頭試問によるパフォーマンス評価の成績、大学入試センター試験の成績	学力型AO	調査書、学びの報告書、学びの設計書	
法学部		20名	提出書類、大学入試センター試験の成績、小論文試験の成績	後期日程	調査書	
経済学部		25名	提出書類、大学入試センター試験の成績、論文試験の成績	学力型AO	調査書、学業活動報告書、学びの設計書	
理学部		5名	提出書類、数学に関する能力測定考査、口頭試問の成績、大学入試センター試験の成績	学力型AO	調査書、学業活動報告書、学びの報告書	
医学部	医学科	5名	提出書類、小論文試験、面接試験の成績	推薦	調査書、推薦書、学びの設計書、TOEFL-iBTの受験者成績書原本、特色事項に関する資料	
	人間健康科学科	看護学専攻	10名	提出書類、論文試験、面接試験の成績、大学入試センター試験の成績	学力型AO	調査書(高校2年生までの成績を記載)学業活動報告書、学びの設計書
		理学療法学専攻	3名			
		作業療法学専攻	3名			
薬学部	薬科学科	3名	提出書類、論文試験、面接試験の成績、大学入試センター試験の成績	学力型AO	調査書、学業活動報告書、学びの設計書、TOEFL-iBTの受験者成績書原本	
工学部	地球工学科	3名	提出書類、口頭試問、面接試験の成績、大学入試センター試験の成績	推薦	調査書、推薦書、学びの設計書 顕著な活動実績の概要	
	電気電子工学科	5名	提出書類、大学入試センター試験の成績			
	情報学科	2名	提出書類、口頭試問の成績、大学入試センター試験の成績			
	工業化学科	若干名	提出書類、大学入試センター試験の成績			
農学部	食料・環境経済学科	3名	提出書類、大学入試センター試験の成績、小論文試験の成績	学力型AO	調査書、学業活動報告書、学びの設計書	

注：特色入試（法学部を除く）において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加えられます。法学部を除き、学部・学科間の併願はできません。出願にあたっては、必ず募集要項で確認してください。

特色入試に関する情報は下記サイトで随時発信していますので、こちらをご覧ください。

京都大学特色入試WEBサイト <http://www.nyusi.gakusei.kyoto-u.ac.jp/tokushoku/>

A world of new discoveries

Focus 垣根を越えたエンタテインメント 京都大学人物伝 の世界を拓く Outstanding Kyoto University Graduates

舞台や映像作品に欠かせない個性派俳優として多分野で活躍する山西惇さん。
役と向き合うたびに内面を掘り返し、新しい自分を発見し続ける
役者としての生き方と京都大学との関係についてお話を伺いました。

演劇やミュージカル、
映画やテレビドラマ、バラエティまで
すべて違う顔で人々を魅了する
役者の矜持と京都大学



俳優 山西 惇

1962年 京都市に生まれる
1986年 京都大学工学部石油化学科を卒業
在学中「劇団そとぼこまち」で演劇に目覚める。「相棒」シリーズ(テレビ朝日)の角田課長役でもおなじみ。舞台はもちろん映画やドラマなど映像でも活躍、近年はクイズやバラエティ番組にも登場。テレビ「心がポキッとね」(フジテレビ)、「ちゃんぽん食べたか」(NHK総合)、「Qさま!!」(テレビ朝日)
舞台『人間合格』、『祈りと怪物〜ウィルヴルの三姉妹〜』、『木の上の軍隊』、『きらめく星座』、『敦原検校』、『七人ぐらいの兵士』、『ミュージカル『スコット&ゼルダ』
映画『相棒 - 劇場版 -』、『インシエーション・ラブ』など

京大は子どもの頃から身近な存在

母方の叔父が二人とも京大の工学部生でした。彼らの学生時代を見ていたせいか、京大には子どもの頃から愛着のようなものがあったと思います。

中学高校とお世話になった東大寺学園は、受験校の割に自由な校風でしたから、勉強だけではなくバンドやコントをやっていると楽しく過ごしました。模擬試験では京大の合格圏を出たり入ったりという状況でした。

父親が建築家だったので建築学科を第一志望とし、第二志望に石油化学科を選びました。

いざ受験してみると、初日の数学で叩きのめされた。まったく自信が持てず、どうやって帰ったか覚えていないほど落ち込みました。翌日の英語と国語ではそれなりに手応えを感じたものの、やはり自信がないので合格発表は父に見に行ってもらいました。結果、石油化学科で合格していました。浪人して建築学科を受けなおすか悩みましたが、現役合格はやはり幸せなことだと思って頑張ることにしたのです。

入学、そして演劇との出会い

入学した81年は石油化学科の福井謙一教授がノーベル化学賞を受賞された年でした。どの授業でも沸き立つような印象がありましたね。一方ではキャンパスライフを満喫しようと、サークル巡りもしました。そこで出会ったのが劇団そとぼこまちです。公演のお知らせがあったので早速観に行きました。高校の時にやったコントや芝居の面白さを何十倍も高度に完成させているお兄さん方がいるんだと衝撃を受け、入団を決めたのです。座長は文学部の辰巳琢郎さんでした。当時は、真剣に劇団四季を目指すとおっしゃっていましたね。お客さんにたくさん入って

もらってこそ芝居だろう、と。他校の劇団員からは社長!と呼ばれていましたから(笑)実際に阪急ファイブ・オレンジルームで入場料千数百円の公演をやっていた。当時の学生劇団としては破格ですよ。

初舞台は熱血青春ドラマ

その年の7月に新人公演をやることになり僕は青春ものに入れてもらいました。ラグビー部を舞台にした青春もののパロディとしてスタートしましたが、それでは面白くないだろうということで、ラグビー部から東大を受験するクラブへと設定が変わった。僕は文科一類を目指す、文一と呼ばれる役でした。みんなでわいわい言いながらひとつの作品ができあがっていきました。この楽しさが僕にとっての芝居の原点かもしれません。

とにかく先輩たちの発想がブツ飛んでいたんです。ドラマ・映画「トリック」などの脚本家蒔田光治さんや、TBSでプロデューサーとして活躍する橋本孝さんもそのなかにいました。いまでも当時と全然変わっていない。自分が面白いと思ったことを信じてやり続け、それが世間にも認められているんですよ。

痛恨の忘れ物で、はからずも2回生を2年

勉強は真面目にやっていたのですが、2回生から3回生へ上がるときに独語を単位だけ落として留年しました。それも持ち込み可の試験です。朝まで勉強して試験会場に向かったら、そこで資料を忘れていたことに気づいた。おかげで役者になってから台本を家に忘れるようなことはありません(笑)

京大の校風でもあるのですが、すべて自己責任のもと、一人ひとりが学びたいことを学べる雰囲気か漂っていた。だから、ただただ芝居をやるだけではなく、自分が今やっている勉強と結びつけようとしていた先輩も多かったですね。法学部の先輩は「民法何条で言えばこういうことだよ」と嬉々として語っていました。色んな先輩や仲間と出会い、色んな話を聞かせてもらっているうちに、どんどん芝居にのめり込んでいったのです。

卒業後は堅実に就職、芝居は趣味のつもりで

3回生に上がり専門が始まると授業には一生懸命出て課題をこなしました。そして夕方から夜中までは芝居をする、その毎日でしたから本当に大変でした。

卒業後はメーカーに就職し、研究職をやりながら劇団に通いました。プロの役者になれるなんて思えなかったのが、芝居は趣味としてやろうと決めたのです。

学生時代から一緒にやってきた生瀬勝久さんが座長になったのはその一年後のこと。生瀬さんはすでにプロとしての道を歩み始めていました。僕は毎日17時20分に仕事を終えると西宮の会社を飛び出し、クルマで京都の稽古場へ。そこから終電の時間までみんなで稽古をした。僕はそのあと生瀬さんと演出の打ち合わせなどをやって、また西宮へ帰ると言う生活でした。

生瀬さんがオリジナル作品をやると言い出したのもその頃。初めて書き上げた台本がまた面白かったのです。その年は新作だけを6本やりました。すごいエネルギーだったと思います。

転機が訪れたのは仕事を始めて3年8ヶ月のこと

初の東京公演が持ち上がったのは、生瀬さんが座長になって4年目のこと。下北沢の本多劇場という小劇場のメッカへ、いちばん自信のある芝居を持っていくことになりました。同じ頃、会社から学会発表でハワイへ行けとお達しがありました。ところが、二つのスケジュールは完全に重なっていた。

そこでようやく踏ん切りをつけ、役者としてやっていきたいと会社に退職を願い出ました。会社は、自分が決めたのならやっつけようと言ってくれたのです。本当に食べていけるの?とも(笑)

もちろん不安はありました。収入にしても、これからはひとりで何とかしないとイケませんからね。でも、目の前には役者として走り続けている生瀬さんがいた。それは大きかったです。

仕事を辞めて、まず失業保険の申請に行き、続いて劇団の先輩が立ち上げた俳優のマネージメント会社に所属しました。

しかし、役者の仕事がおいそれとあるわけではありせんから、会社の副業であるイベント企画の手伝いをして食いつなぎました。企画書づくり、プレゼンも自分でやったのです。分野こそ違っても大学、社会人を通じてやってきた研究発表のノウハウが生きていたと思います。

大変だと思う前に、どうやったら解決できるのかという発想で何事にも向き合えるのは、京大で学んだ成果のひとつといえるでしょうね。

当時は、なんでこんな実験ばかりやらなければならないんだろうと思いました。でも、自分で仮説を立て、実験をし、結果を分析するというのを繰り返すことで、思考の道筋が自然に身についたのだと思います。

壁を乗り越えてつかんだ、役者として生きていく確信

30歳を過ぎて初めて野田秀樹さんの舞台に呼んでいただいたのですが、そこでコテンパンに叩きのめされたのです。大阪へ帰って、自分が思っている面白い芝居とは何か、ととことん突き詰めようと試行錯誤しました。例えばワークショップをやって、一般の人と、プロとしてやっていこうとしている自分との違いはなんだろうとか、試行錯誤を繰り返しました。

翌年、やはり野田秀樹さんの作品が上演されることになった。僕はキャストとして名前は上がっていませんでしたがワークショップに参加させてもらい、出演の決まっていた大竹しのぶさんたちと一緒に発表したのです。それをご覧になった野田さんがどういふ訳か僕のことを、もう一度キャストリングしてくださいました。

その公演の打ち上げでドンチャン騒ぎをしてみんなと別れたあと、すごく泣けてきたんです。やっと認められたのかなと思いました。その時ですね。地に足が着いたと感じたのは。

その後、仕事も徐々に増えました。テレビや映画など映像の世界へ行ったら行っただけ、一からの勉強です。二度と同じ役はないし、前にやった役の焼き直しでこなせる仕事もない。毎回どうしようどうしようと思いつつ現場に向かっている。それが楽しいですね。

科学の実験は、世界中の誰もがまだ知らないことを知ろうとすることだし、試行錯誤でしかそこにはたどり着けない。とにかく試して、ダメだったら次を考える。たどりつくまで努力する。役者で言えば、自分をつねに掘り続ける。その姿勢を京大で学びました。

人生は先へ行くほど楽しくなる
それを支えるのは学び

これまで、役に教えてもらったことがいっぱいあります。正義についてここまで思い込める人がいるのかとか、ここまでの絶望に耐えられるのかとか、自分の考えていたことを根こそぎ剥ぎ取られたとき、人はどうなるんだろうとか、演じてみてわかったことがたくさんありました。一生懸命学び考えるからこそたどり着ける場所があるんです。そういうところに連れて行ってくれる役にこれからも出会いたいですね。

人生は先へ行けば行くほど楽しくなります。そのベースにあるのは学ぶということ。大学に合格したら受験勉強からは解放されるかもしれませんが、本当の学びはこれから。大学に入って何を学びたいのか。それをイメージして受験に臨んでください。